

さいたま新都心から小児医療の新時代

県立小児医療センター 新病院オープン

人口・出生数ともに全国5位※1の埼玉県。高度な周産期医療※2と救急医療体制の整備が求められています。
県立小児医療センターはさいたま赤十字病院と連携して小さな生命を救うための体制を強化し、最先端の小児医療を提供します。

※1 人口・平成27年国勢調査。出生数：平成26年「人口動態統計(各定数)」
※2 妊娠22週から生後7日未満までの間に緊急事態が発生した場合、産科・小児科が一体となって対応する医療体制。



手術室周りの
ホスピタルアート



▲正面玄関前のモニュメント



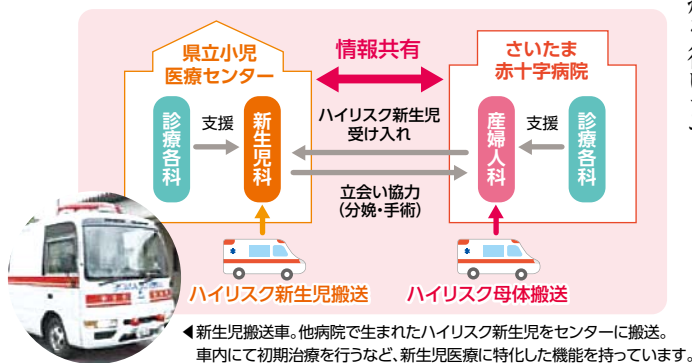
モッキー マラッカ ドラムーチョ ラッパッパ フェール シンバルン ピアノン チェロット

新病院キャラクター「カリヨンの樹」に住むロボットたち。8体のロボットキャラクターは、子供たちに寄り添い励ます「おともだち」のような存在です。

外来診察開始

29年
1/5木

総合周産期母子医療センター



2病院の連携により、出産から新生児治療までを一貫して行います。重い妊娠合併症などを持つ母親は、さいたま赤十字病院の母体胎児集中治療室に入院し、疾患を治療しつつ出産までのケアを受けることができます。さらに、生まれた赤ちゃんが低体重児であったり重い疾患を持っていた場合には、すぐに県立小児医療センターの新生児集中治療室に運びます。新生児科を中心に各分野の小児専門医が協力して手厚い治療を行います。

総合周産期母子医療センターを整備

ママも赤ちゃんも安心
県立小児医療センターとさいたま赤十字病院の連携

今月の読者プレゼント!



- 情報版ページ(裏表紙の次のページから始まります。) 1~3
- あったまろ、埼玉で。 裏表紙

救命救急機能の向上

県立小児医療センター内に小児集中治療室(PICU)を14床新設。さいたま赤十字病院に整備する高度救命救急センターとともに子供から大人まで診療科の領域を問わず、全ての重篤な救急患者を24時間体制で受け入れます。



▲現病院の様子

医療機能の強化

成長・発達を続ける小児の身体への負担を最小限に抑える最新医療を導入。内視鏡手術やハイブリッド手術室を新設します。



▲ハイブリッド手術室
※開胸手術とカテーテル治療の機能を備えた手術室。

快適な療養環境

ゆとりある病室で落ち着いて療養を受けられる環境を提供します。また、ホスピタルアートを設置するなど、患者の不安や緊張を和らげる工夫をしています。

県立けやき特別支援学校

県立小児医療センターの移転に伴い、新たな名称で岩槻特別支援学校を県立小児医療センター内に移転。同センターに入院・通院する小・中学生の一人一人の体調や治療に合わせて学習を進めます。

家族滞在施設 ドナルド・マフドナルド・ハウスさいたま



県立小児医療センター内に療養センター内に設置。子供の入院に際し、保護者などの精神的・経済的負担を軽減します。

県立小児医療センター 新病院 アクセス



県立小児医療センター
〈12月27日(火)に移転します〉
【所在地】さいたま市中央区新都心1-2
【電話】048・601・2200(代表)
【外来診察開始】1月5日(木)
【時間】午前8時45分～午後5時
★現病院(さいたま市岩槻区)の外来診察終了日は12月22日(木)です。
★診療は地域医療機関・医師からの紹介が原則。緊急の場合を除いて予約制です。